

平成29年度 学校評価総括表

教 育 目 標		人権を尊重する民主的な社会の形成者として、豊かな人間性と創造性を備えた生徒の育成を目指す。 ものづくりとビジネスの実習、演習を通して、技術を身に付け社会に貢献できる生徒の育成を目指す。					総合評価		
運 営 方 針		「ものづくりとビジネスの出会いを通して人作り」をスローガンに、高等学校普通教育並びに工業科・商業科等に関する基礎的・基本的な知識と技術を身につけさせて、産業及び文化の進展に貢献し得る豊かな人間性と自立的な態度を育成するとともに、清新な気風に満ちた魅力ある校風の樹立をめざす。							
昨年度の成果と課題		本 年 度 の 重 点 目 標			具 体 的 目 標				
奈良商業高校と奈良工業高校が統合されてから10年が過ぎた。それぞれの学校の伝統を引き継ぎながらも、この10年間の継続した奈良朱雀高校としての取り組みの結果、学習面や生徒指導面において成果が現れてきたように思われる。 本年度は、生徒自身に将来の進路を見据えさせることにより重点を置き、生徒個々が主体的に自己実現に向けて取り組めるよう、教育活動のより一層の進展をさらに図りたい。		(1) 自信と誇りを持ち、地域や県全体を活性化させる原動力となる人材を育てる。			<ul style="list-style-type: none"> 各学年・科別のシラバスを活用し、つきたい力を生徒個々に理解させるとともに、基礎学力の定着を図る。 個々の生徒にとって超えることが可能な目標をその都度設定させ、目標を達成した経験を増やすように図る。 自己の目標を明確にし、その達成に向けた取組の一貫として資格や検定の受験を奨励し、合格者増加を目指す。 				
		(2) 困難にも打ち勝つ強い体力と精神力を養う。			<ul style="list-style-type: none"> 体力テストの取組を強化し、体力の重要性に関する意識付けを行う。 体育の授業を通して体力の向上を図る。 部活動への加入率を向上させ、その活性化を図る。 				
		(3) 産業人の卵として必要な資質を磨き、ルーラーやマナーを守り、感謝の心を忘れない生徒を育成する。			<ul style="list-style-type: none"> 挨拶運動や奉仕活動を実施することにより、規範意識の向上を図る。 教育活動を通じて、勤労観、職業観を育む。 社会の一員として必要なマナーやルールへの定着を図る。 				
		(4) 学校力の向上と家庭教育力の向上を図る。			<ul style="list-style-type: none"> 学校としての組織力の強化と教職員の指導力を向上させるため、組織の見直しや教職員の研修会参加を促す。 家庭訪問や教育相談で家庭との連携を図る。 チーム「奈良朱雀定時制」の教員集団として、生徒、保護者及び地域とのよりよい関係を構築する。 				
評価項目	具体的目標(評価小項目)	具 体 的 方 策 ・ 評 価 指 標			自己評価結果		成 果 と 課 題 (評 価 結 果 の 分 析)	改 善 方 策 等	学校関係者評価(結果・分析)及び改善方策
学習指導	わかる授業及び学力をつける授業の実践	<ul style="list-style-type: none"> 各教員が当該教科・科目のシラバスを作成するとともに、これを用いて年度当初に生徒へ学習の目的や学習内容、評価方法を周知する。 各教員が当該教科・科目において、2, 3学期当初に学習内容等を再度周知確認する。 機械・ビジネスの専門教科でシラバスを活用し、指導方法や教材の工夫、学習方法の把握の仕方などについて情報交換を行い、指導力の向上に努める。普通教科間でも同様の取り組みを行う。 1学期末に生徒による授業評価を行い、その結果を授業改善に生かす。 			B	B	<ul style="list-style-type: none"> アクティブラーニングを進めるとともに授業の目標などを生徒に説明して、努力目標と評価の着眼点を説明していただいております、ある程度生徒には浸透したと思う。 各教科、科目でテスト結果や授業のアンケート(振り返りシート等)を利用して、授業目標と生徒の到達度を点検したり、心配な生徒には声かけをして話を聞き、その上で学期や考査ごとに必要な目標を再設定しているという意見が多かった。 各教科・科目で授業評価のアンケート結果をみて、生徒の実態を把握した上で授業していただいているので授業における生徒の信頼も芽生えていると思われる。 	来年度は、授業の計画から評価までの流れをより具体的に描きながら、生徒の実態に合わせつつも、教科におけるつきたい力や技能を着実に身に付ける取組がなお一層出来るようにしたい。	登下校中のながらスマホをする高校生(だけではないが)をよく見かける。交通安全の観点からだけでなく、学習面での影響も大いに危惧されるので、これまでの指導をより一層進めていってみたい。
	個に応じた指導の実践	<ul style="list-style-type: none"> 中間考査後の成績を全職員で確認し、意見交換のもと個々の生徒の学習状況を把握・確認する。 常に学習の必要性を訴えかけるとともに、特に1, 2学期末の成績不振者への指導において、普段の学習が成績に反映されることを十分に理解させながら指導する。 個々の生徒の興味関心や学習意欲を充実させるために、授業においては全体指導とともに、進捗度に応じた課題を行う時間を設けるなど工夫する。 			B	B	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の学習状況、生活状況を意見交換会や成績会議によって共通理解できた。 三者面談や成績不振者指導の中などで担任や教科担当から普段の生活や授業への取り組みの大切さを説明した。 主に放課後や成績不振者指導の時に教科指導はもとより、個別に生徒の思いや話を聞いて、人間関係を深めつつ学習への興味関心を喚起した。 個別に補習などを行ってもらっている。 	生徒の成績や生活環境等を定例会議の意見交換枠だけにとらわれず、普段から教員同士が生徒の情報を交換し、その実態把握や共通理解に努めることが大切であり、ますます進めていきたいと思う。	
	資格・検定の取得に対する積極的な支援	<ul style="list-style-type: none"> 取得可能な検定や受験可能な資格の情報を広く生徒に提供し、資格取得への関心を高める。 生徒の実力を考慮しつつ、取得することによって将来役に立つ資格や検定を絞り込み、重点的に取り組ませる。これらの資格検定については、より多くの生徒に受験するように働きかける。 機械科、ビジネス科で取り組んでいる資格や検定を、生徒の段階に応じて教師が呼びかけることを通じて、取得への意欲を盛り上げていく。 			B	B	<ul style="list-style-type: none"> 生徒にとって希望する検定、または目標にすることが可能な検定への意識付けを授業等で行い、一定人数の受験者があった。 両科とも授業で検定への取り組みを行っている。 	検定料など経済的負担も踏まえながら、基本的には就職への優位となるよう、「社会人になって役に立つ知識や技能」を生徒全員に付けることを第一とした。	
生徒指導	基本的生活習慣の確立と規範意識の向上	<ul style="list-style-type: none"> 遅刻・欠席防止を徹底する。(昨年度の20%減) 挨拶の励行、時間厳守及び自己管理の徹底を目指す。 各集会におけるマナーや通学時のマナーの啓発活動を行う。 交通安全教室及び巡視指導等において、登下校時の安全確保の取り組みを一層進める。 月1回生徒配布プリントにより、たばこの害に関する健康意識の取り組みを昨年度より進める。 個別面談や家庭訪問で知り得た生徒の状況把握を教職員で共通理解を図るように努める。 			B	A	<ul style="list-style-type: none"> 欠席については減少したが遅刻については減少出来なかった。 生徒は少しいはあるが挨拶する習慣が定着するようになってきた。 集会時の態度や通学時のマナーにおいてはほぼ達成できた。 巡視計画では年間を通して実施したが靴の盗難が見られた。 月一回「たばこの話」喫煙における健康被害を中心に指導した。 家庭訪問で得た情報をまとめて資料作成し、情報共有した。 	4年間の指導を通して学校のルール、時間厳守、社会のきまりをしっかりと身につけさせたい。又、日常生活の関わりの中で生徒の変化を観察し継続して指導していかなければならない。	生徒会役員による挨拶運動の成果もあり、以前よりも挨拶をする生徒が増えたことはとても喜ばしい。次のステップとして、相手の目を見て笑顔で挨拶が出来るとなると、より素晴らしいと思う。
	生徒会活動の活性化及び部活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> 生徒会役員の主体的活動や生徒会行事の活性化を図る。 クラブ部員の増加により、加入率を昨年度を上回る。 部活動の勧誘を積極的に行う。 			A	B	<ul style="list-style-type: none"> 生徒会の打ち合わせをこまめに実施し意志疎通を図った。その結果、生徒会のまとまりや自主的な活動・工夫が多く見られる成果となった。部活動においては制約された時間の中で充実した活動を行い、陸上部においては全国・近畿大会に出場し活躍してくれた。 	生徒の主体性や自主性を高めるような生徒会活動、部活動の在り方を更に検討したい。	

評価項目	具体的目標(評価小項目)	具体的方策・評価指標	自己評価結果		成果と課題(評価結果の分析)	改善方策等	学校関係者評価(結果・分析)及び改善方策	
人権文化	人権教育 HR の充実	<ul style="list-style-type: none"> 各学期 1 回の人権教育 HR を通じて多様な人権課題に対応することで生徒に人権の視点を身につけ、人権感覚を向上させるために職員研修を実施する。 1 学期において、1 年「なかまつくり」、2 年「違いの尊重」、3 年「進路保障への取り組み」、4 年「社会で豊かに生きるために」の各テーマで実施し、2 学期は共通テーマで「部落問題」を実施する。 	B	B	1 学期は学年別にテーマを設定して HR を実施した。2 学期は「部落問題学習」HR を全学年で実施できた。事前に職員研修を実施したが、HR 実施までの準備期間が充分確保できなかった反省点はある。	部落問題学習を HR に位置づけるために、他の人権学習テーマとともに、人権教育 HR 全体の計画を作り直す。	奈良県高等学校生徒生活体験発表大会への参加を通して、人前で話す力の養成を一層進めて欲しい。	
	校内生活体験発表会と奈良県高等学校生活体験発表会に向けた取り組みの充実	<ul style="list-style-type: none"> 生徒への作文指導を充実させることで聖とここが自身を振り返り、自尊心と自己実現を図るための意識を高める。 校内生活体験発表会が、他者の思いに共感する場となることで、同じ定時制で学ぶ連帯感と共に自他を尊重できる人権意識の向上を目指す。 	B	B	校内生活体験発表会は、5 クラス代表生徒の発表にとどまり、全クラス代表の発表にはならなかった。作文発表に積極的にとりくめる姿勢を育てることが必要と思われる。	人権意識を育むとともに、校内生活体験発表会において、人前で話す力の養成も目指す。		
進路指導	生徒理解(1～4年)	<ul style="list-style-type: none"> 「自己点検シート(1 年)」及び「進路希望調査(1～4 年)」等を利用して生徒理解に努め、全教員で個に応じた進路指導が行えるようにする。 	B	B	基礎学力を高め、生徒の関心・意欲を喚起させるような取組をしなければならぬ。生徒個々の理解や生活環境の把握が不可欠である。また、生徒に自分の将来像や目的意識を持たせることも重要である。	<ul style="list-style-type: none"> 入学直後の基礎学力テストなどを実施する。 保護者との関係作りに一層取り組む。 	これまでと同様に、生徒個々の希望に応じた進路指導を実施していただきたい。	
	4年生の進路決定	<ul style="list-style-type: none"> 就職…より効果的な指導を行い、内定率を高める。(就職相談、企業訪問、応募前職場見学、各関連機関との連携、就職試験対策、事務処理等) 進学…将来の職業選択に繋がるような指導、情報を提供する。(進学相談、学校訪問、学校案内・募集要項の取り寄せ、学校見学・体験の紹介、入試対策、事務処理等) 上記の指導を行うため、担任と保護者との連携に努める。 	B	B	B	<ul style="list-style-type: none"> 就職 … 1 人 2 社の応募前職場見学を実施し、応募企業を選択させた。ハローワーク学卒担当からも情報を得、希望者全員が内定した。ただ、職種へのこだわりがやや希薄で、本校が専門高校であることからすれば問題があるといえる。 進学 … 情報を提供し、オープンキャンパスにも参加し、AO入試で合格した。奨学金利用に関わる事務処理もスムーズに行えた。 		<ul style="list-style-type: none"> 次年度卒業予定生徒(現3年)との個人面談を実施する。 各関連機関との連携する。 就業(日常)の奨励する。 各学級担任との情報共有を行い、クラス、学年単位での進路学習会を開催する。
	各種奨学金の申請及び事務処理	「奈良県高等学校等奨学金」「奈良県高校生等奨学給付金」「日本学生支援機構奨学金(給付・貸与)」「石澤奨学金」などの申請や事務処理を適切に行う。	A	A	生徒の家庭状況の把握に努め、利用可能であれば紹介し、利用を促す。但し、奨学金の意義について十分に理解させることが不可欠である。	<ul style="list-style-type: none"> 個人面談、保護者懇談を行う。 家庭訪問を実施する。 		
環境保健体育	体力の向上	<ul style="list-style-type: none"> スポーツテストを通じて、生徒一人一人の運動能力を把握し、課題等を明確にして体育の授業や体育行事を工夫しながら、年齢層に応じた体力の向上に取り組む。 	A	A	スポーツテストの参加率は96%を超え生徒一人一人の運動能力を把握することが出来た。体力向上については授業において準備運動で筋力トレーニングや縄跳びを入れ体力向上を図った。	各生徒の能力は把握出来たものの全体的に体力・能力的なものは向上した。	各種検診の受診率UPに続いて、治療勧告書の回収率が上がるよう、次年度の取組を期待する。	
	健康の保持増進及び安全教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> 定期健康診断や各種検診を計画的に実施をし、生徒個人の健康状態を把握させる為にも各検診の受診率90%以上を目指す。 家庭との連携を密にし、協力を得ながら治療勧告書を発行して効果的に活用する。 	A	A	B	定期健康診断及び各種検診の平均受診率は96.75%であった。特に一年生の欠席者が少なく昨年に比べ受診率が増加し、目標を達成出来た。		治療勧告書の回収率についても数値目標を出していきたい。
	環境整備と環境美化への意識の向上	<ul style="list-style-type: none"> 随時、施設の安全点検を行い、環境整備に努める。 環境美化への意識を高めるために各クラスの環境委員会を中心にゴミの分別をはじめ生徒の自主的な清掃活動に取り組ませる体制づくりを行う。 	B	B	学校全体の環境美化状況は、HR 等での指導により、教室や廊下等のゴミはかなり減ったように感じている。又、ゴミの分別についても生徒の意識が少し高まった。防災訓練については例年9月に実施、今年度は発煙灯を用いて実践を踏まえた訓練が出来た。	まだまだ不十分な面があるので引き続き環境美化・防災の意識を高める指導をしていく必要があると感じる。		
機械科	<ul style="list-style-type: none"> 基本的、基礎的な知識・技能の確実なる習得 各種検定試験への支援 ものづくりへの興味・関心の育成 	<ul style="list-style-type: none"> 座学で学習した内容をしっかりと理解し、その内容を実技を通して再確認し作品を加工する手順を学ぶことに評価の対象を置く。 レポートを提出することで実習内容の確認ができ、評価を確実にする。 機械科に関する各種検定試験について、放課後及び長期休業期間を利用して支援する。 機械科としてのものづくりの大切さを認識させ、人の役に立つものを製作することに重点を置き、評価の基準とする。 	B	B	B	<ul style="list-style-type: none"> 座学で学んだ内容を、効率よく実習に結び付けその中で生徒一人ひとり確認しながら学ぶことが出来るようになってきた。 また資格試験においては、夏休み中心に一覧表から希望を聞いて前向きに取り組んだ。レポートに関しては特に1年生は書いた経験があまりないので、当初指導するのに時間がかかったが、学年末にはしっかり書く習慣が出来てきた。 	<ul style="list-style-type: none"> 座学と実習の関連性を高め、シラバスで十分に説明する必要がある。また個々の能力に合わせ、必要な資格を選択できるような、判断力を養えるような取り組みを今後考えたい。 	ものづくりへの興味関心が高まるような取組を引き続き行ってほしい。
ビジネス科	<ul style="list-style-type: none"> 授業方法の工夫 各種検定試験(希望者)への継続的支援 	<ul style="list-style-type: none"> ICTを活用し、授業方法の工夫改善を行う。 各種商業関係の検定試験受験希望者に対し、放課後の補習・部活動を通じて支援する。 商業科教員間の意見交換等を、学期に一回以上実施する。 	B	B	B	<ul style="list-style-type: none"> 提示モニター、実物投影機などのIT機器や教育支援ソフトを活用して授業展開を行い、生徒の学習活動の助けとなった。 部活動を継続して行った。検定受験希望者にも補習ができ、より上位級が狙えるようになってきている。 	<ul style="list-style-type: none"> 複数年で学ぶ科目もあり、継続性を持たせる授業方法になるように情報交換を重ねたい。又、継続して補習・部活動が行われるようにしていきたい。 	検定受験希望者への補習等をより一層進めていくて欲しい。